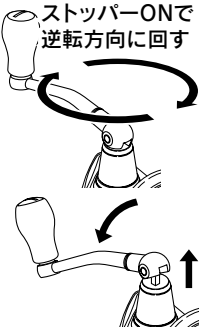


使用前のご注意

■ハンドルの折りたたみ方法

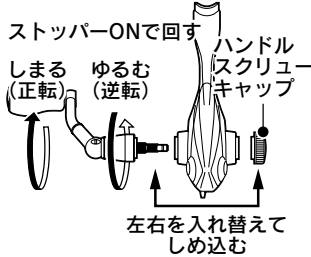
ハンドルはネジ込み式になっています。たたむ時はストッパーレバーをONにして、ハンドルを数回逆転方向に回転させるとハンドルがゆるみ、折りたたむことができます。のばす時はたたむ時と逆にします。(図は左ハンドルの場合です。)

※この時ハンドルをゆるめ過ぎますと、本体より抜け落ちますのでご注意ください。



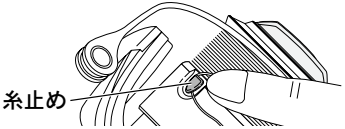
■ハンドルの左右付け替え方法

ハンドルは左右共用ネジ込み式になっています。左右を入れ替える時はストッパーレバーをONにしハンドルを数回逆転方向に回転させると、ハンドルがゆるみ、本体より抜けます。ハンドルとハンドルスクリューキャップを左右入れ替えて、ストッパーONで正転方向に廻して本体にねじ込んでください。



■糸の止め方

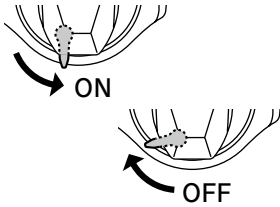
ツメの下側から糸を通して固定して下さい。



■ストッパーレバーの操作方法

通常は、ストッパーONで使用します。

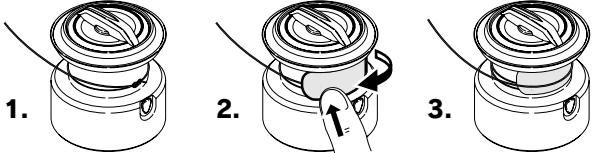
- ON 逆転止めが作動し、ハンドルは正転方向にしか廻りません。
- OFF 逆転止めが解除され、ハンドルは正転、逆転どちらの方向にも廻ります。



■糸止めシールの使用方法

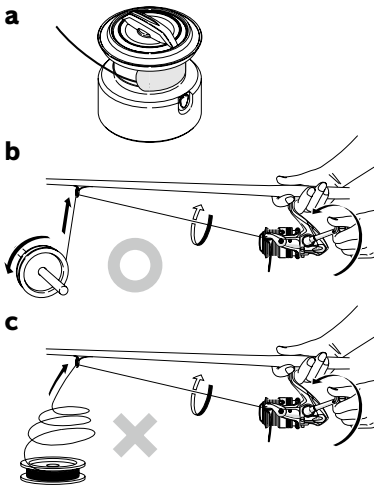
このリールにはPEライン用に糸止めシールが入っています。ラインの巻き始めに下記のようにお使いください。このシールを使用することでライン巻き始めのライン滑りがなくなり、PEラインをスプールに確実に巻くことができます。

1. PEラインのチチワをスプールに締め込みます。
2. この締め込んだラインの結び目の上にシールをピッタリと確実に貼ります。(指などで強く押してください。)
3. シールが確実に貼られていることを確認してラインを巻き込みます。(最初は少しゆっくりと巻くようにします。)
4. PEラインは滑りやすく、伸びがないのでナイロンラインなどよりも強いテンションをかけてきっちりと巻くことが必要です。



■糸の巻き方

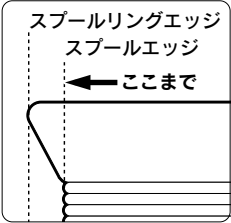
1. ドラグを強く締め込みます。
2. リールを竿にセットします。
3. 元ガイドから糸を通してスプールに結びます。(図a)糸止めシールをスプールに結んだ糸に貼り付け、ラインをスプールに固定します。
4. 糸が巻かれているポビンに、割り箸や鉛筆等の軸になるものを通します。
5. そのポビンと軸を誰かに持ってもらい、適度(スプールに巻かれた糸にツメを押し込めない程度)なテンションをかけて、ポビンを回転させながら糸を巻き取るようにして下さい。(図b)図cのようにならないようご注意ください。



尚、PEラインを巻かれる時は、事前にPEラインを十分に湿らせてください。巻き上げ時に発生する熱(抵抗熱)によってPEラインが劣化するのを防ぐためです。

●推奨糸巻量

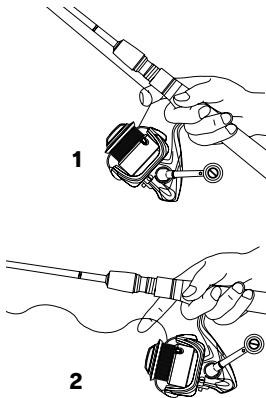
スプールエッジまで巻かれることをおすすめします。(右図)スプールリングのエッジの位置まで糸を巻いた場合、または弱いテンションで糸を巻いた場合はAR-Cスプールの性能が得られない場合がありますのでご注意ください。



使用中のご注意

■キャストイング方法

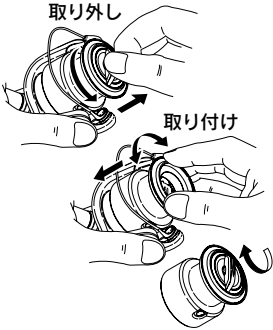
ベールを完全に起こし、図1のように人差し指に糸を引っかけて下さい。竿を振りかぶって、人差し指に感じる糸のテンションが最大になる時に、人差し指から糸を解放します。(図2)その際、ドラグ力が低すぎると、スプールが逆転し指を切る可能性があります。ご注意下さい。キャスト後、ベールを手で戻すか、ハンドルを正転させて(ハンドルオートリターン)巻き取りに入ってください。尚、ハンドルオートリターンの際、ハンドルを廻す勢いが強過ぎると、ベールが戻り切らない事があります。



■糸ヨレについて

ラインローラー(SRパワーローラー)は、糸を巻き取る時に、糸のヨレを軽減させる役割をもちます。但し、下記のような状況によっては、ローラーの性能を発揮できず、糸ヨレが発生する場合があります。

1. もともと糸がヨレている時。
2. 仕掛けが回転して、ヨリがかかる時。
3. 非常に軽い仕掛けを巻き取り、ローラーが回転していない時。
4. その他糸にかかるテンションが低い時。
5. ドラグを多用した時。
6. キャスティング飛距離が短い時。



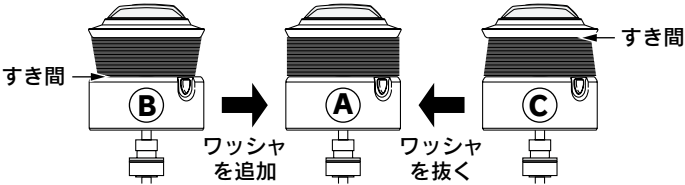
■スプールの着脱方法

- 取り外し方 ドラグノブを反時計回りに外れるまで廻して下さい。
- 取り付け方 スプールを左右に廻しながら、完全に底当たりするまで押し込んで下さい。ドラグノブを時計回りに廻すと締め付ける事ができます。

■糸巻形状の調整方法

初期設定は下記それぞれの種類で下図Aのようにフラットになるように設定されています。巻き上げテンションは、3号(12lb)以下のナイロン、フロロラインが約160g、3.5号(14lb)以上のナイロン、フロロラインが約300g、そしてPEラインは2号以下が約500g、2.5号以上が約1kgです。PEラインは十分テンションをかけて巻き上げて下さい。スプールに巻かれた糸に、爪が食い込まない事が目安です。又、下記以外の号数の糸巻量は「仕様」をご覧ください。

品番	糸の種類	巻量
C2000PGS / 30-2000HGS	ナイロン 4lb	100m



●調整方法

上記の基準糸より直径の細いラインを使用すると上図Bの形状となり、逆に太い糸を使用するとCの形状となります。極端なB(=逆テーパー)形状やC(=順テーパー)は、ともにライントラブルの原因となります。付属のスプール調整ワッシャで、A(=フラットテーパー)に巻き上げて下さい。調整方法は下記の通りです。

B形状の場合… 付属の調整ワッシャを0.25mmから追加して少しづつ増やしていき、Aの形状に近づけてください。

C形状の場合… 付属の調整ワッシャを0.25mmから少しづつ減らしていき、Aの形状に近づけてください。

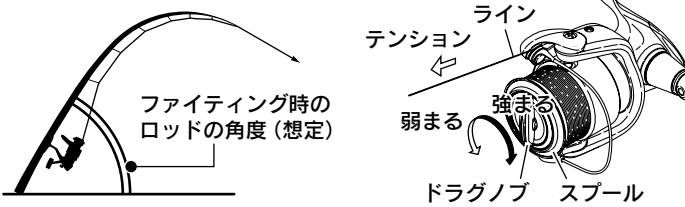
付属しているスプール調整ワッシャは、0.25mmが2枚、0.5mmが2枚です。尚、使用糸の特性(堅さ、編み方、表面コートの有無等)によって、同じ号数(lb数)でも、糸巻量や糸巻形状が変化します。

※出荷段階では、基準ラインを使用した場合は特にA(=フラットテーパー)に巻き上げる為の調整は必要ありません。

■ドラグの調整方法

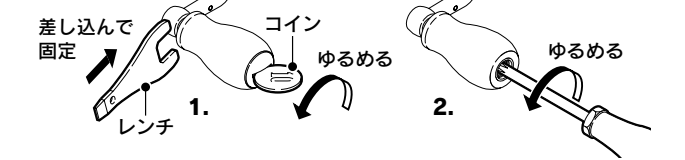
ドラグとは、その強弱を調整することにより、急激な魚の引きに対し、スプールが逆転して糸切れ(ラインブレイク)を防ぐ機構です。又、その逆転時に発生する抵抗値をドラグ力と言います。

1. 実際に使用される竿にリールをセットし、糸をガイドに通してください。
2. ストッパーレバーを“ON”の状態にして、想定されるファイティング時のロッドの角度を保って、図のように糸を引き出しながらドラグノブの締め付けを調節して下さい。その際、出来るだけ実際の状況に近づける為、対象とする魚の泳ぐスピードを想定して糸を引き出して下さい。また、ドラグ力は“実用ドラグ力”の範囲で設定して下さい。



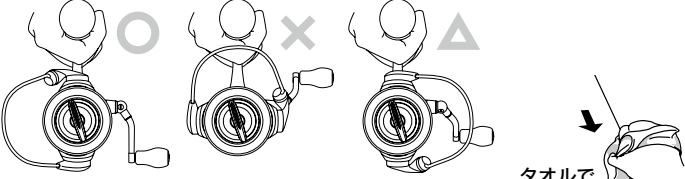
■ハンドルノブの取り外し方

1. 付属のリールレンチで四角形のハンドル軸を固定して、コインでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。
2. ノブ内部のネジをゆるめて外します。



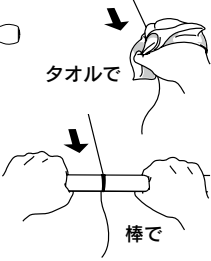
■キャストイングポジション

図の“X”の位置で思い切り投げると、ベールが戻って糸が切れる可能性があります。“Δ”の位置はキャスト後、ハンドルオートリターンしにくい事があります。



■根掛かりした時の対処方法

根掛かりした時は、竿やリールで無理におらないで、手にタオル等の布きれを巻くか、丈夫な棒状のものに糸を巻き付けてゆっくりと引っ張るようにして下さい。ハサミ等で手元付近の糸を切ると、現場に糸が多く残るのでおやめください。



使用後のご注意

■保管上のご注意

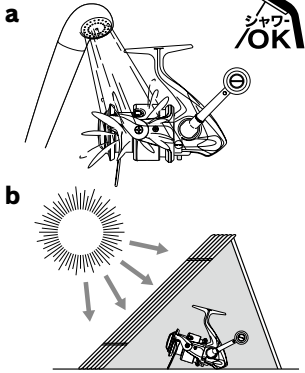
- 海でのご使用の後は、「使用後のご注意」「水没時の緊急措置」の方法で塩分を取り除き、良く乾燥させて保管ください。保管の際は必ず竿から取り外してください。
- 塩入ワームを本体に密着させたまま保管されますと腐蝕する恐れがあります。又、濡れたまま湿度の高い状態で密閉された空間(自動車のトランク、ダッシュボード)に長時間放置されますと腐蝕を起こす可能性がありますので、なるべく乾燥した冷暗所に保管してください。

■必ず竿から外して下さい。

使用後は、必ず竿から取り外して、真水で水洗いしてから保管ください。例え、水洗いされても、竿とセットしたまま放置されますと、リールのフット部とリールシートのフード部に水が溜まり、腐蝕する恐れがあります。

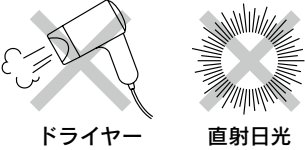
■水洗いして下さい。

まず、ドラグ内に水が入らないように、ドラグを締め込んで下さい。次に、シャワー等の真水で、リールに付着した塩分、砂、汚れを水洗いして下さい。(図a)温水はグリスを洗い流す恐れがありますのでおやめください。又、同様の理由で、リール本体を水没させないでください。



■乾燥させて下さい。

しっかりと水を切った後、直射日光を避け、陰干しして下さい。その際ドラグをゆるめ、オイルインジェクションの注油口キャップを外すと効果的です。尚、直射日光、ドライヤー等は、内部のムレを引き起こします。お避けください。(図b)



■注油して下さい。

オイルとグリスは下図を参考にさせていただき、それぞれ間違えないように噴霧して下さい。尚、グリス、オイルは弊社純正品(下記参照)をお使いください。そうでない場合の品質は保証いたしかねます。ご注意ください。※グリスは、分解してグリスアップする場合以外は必要ございません。

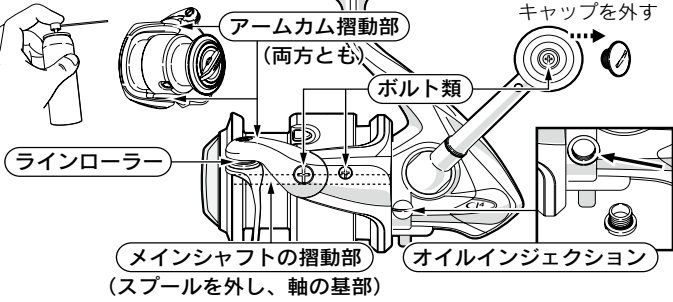
SP-003H (メンテスプレーセット)	¥1,900
SP-013A (オイルスプレー)	¥1,050
SP-023A (グリススプレー)	¥1,100
DG01 (リールドラグ部専用グリス)	¥800

※最寄りの販売店にてお問い合わせ下さい。
上記は2010年5月現在の品番及び税抜本体価格です。

尚、オイルインジェクションからオイルを噴霧する頻度は、水洗い・乾燥後及び、釣行5回につき1度、または、次の釣行までの期間が1ヶ月以上ある場合に1度を目安にしてください。又、1度の噴霧(注油)時間は約1秒です。注油後、注油キャップは必ずお閉めください。逆流したオイルで服を汚す場合があります。ドラグ部にはシマノドラグ専用グリス(上記参照)以外は塗布しないでください。ドラグ専用グリスを必要な方は、アフターパーツで取り扱っておりますので最寄りの販売店にてご注文ください。

※オイルインジェクションからのグリススプレーの噴霧はお避けください。ストッパーがきかなくなることがあります。

オイル(スプレー)使用部品箇所



※グリスは、分解してグリスアップする場合以外は必要ございません。

■ハンドルノブの取り扱いについて

ハンドルノブには、特殊な材料を使用しており、油分によって侵食されます。メンテナンス等で誤って付着した際には中性洗剤等で洗い流してください。

水没時の緊急措置

万が一、リールを水没させてしまい内部が浸水した場合は、下記の応急処置をとってください。

●淡水の場合

オイルインジェクションの注油口キャップを外し、その部分が下になるようにして水を抜き、十分に乾燥させた後、弊社純正オイルスプレーを1～2秒間注油してください。

●海水／汽水の場合

真水で水洗いをしてください。その後、オイルインジェクションの注油口キャップを外し、その部分が下になるようにして完全に塩水を抜き、内部が乾燥するのを待たずに、最寄りの販売店を通じて弊社サービスに修理品としてお預けください。

■移動時のご注意点

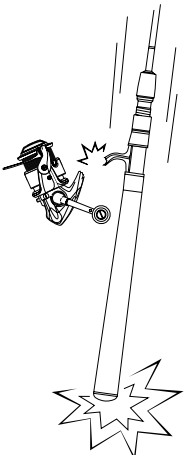
タックルバッグ内での他の道具との接触による破損には十分ご注意ください。特に、塩入ワームを本体に密着させたまま保管されますと、腐蝕する恐れがあります。又、濡れたまま湿度の高い状態で、密閉された空間(自動車のトランク、ダッシュボード)に放置されますと腐蝕を起こす可能性があります。

■落下にご注意下さい。

リールを竿に取り付けた状態で、アスファルト、コンクリート等の地面に強く落下させると、衝撃でリールの脚部が折れることがありますのでご注意ください。(右図)

■水中での使用は出来ません。

水中での使用には対応していません。絶対におやめください。



Soare CI⁴ C200OPGS
Soare CI⁴ 30 2000HGS